

## ぶらくり会30年11月例会（第197回）報告

開催日時：11月9日（金）午後6時30分～午後8時

開催場所：神戸市産業振興センター 801号室

講師：吉川 英則（よしかわ ひでのり）様

柑芦会神戸支部会員

（略歴）

大阪府出身

和歌山大学経済学部卒業（17期、浅野ゼミ）

講演テーマ：『アイルランド語学学校』

出席者数：13名

11月度のぶらくり会例会は、柑芦会神戸支部会員の吉川英則様に講師となって頂き『アイルランド語学学校』というテーマでご講演頂きました。

講師は、2015年8月まで現役でお仕事をされていたそうですが、現役引退後は、これまで行けなかった国を訪問され長期間の旅行を始められたそうです。

五感を働かせ、歴史、文化、食物等何でも見る・聴く・臭う・味わう・触れる事で異文化を知る事を旅行の目的とされ、2015年10月以降2018年9月まで以下に記載の国々、地域にそれぞれ目的を持って訪問されていますし、11月後半にはバンコクに、12月には釜山を訪問予定だそうです。

| 期間              | 訪問地                                      | 訪問目的                          |
|-----------------|--|-------------------------------|
| 2015/10/12～19   | ボスニアヘルツェゴビナ・クロアチア他                       | カトリック・イスラム教・東方正教 文明の衝突の地訪問    |
| 2015/12/3～15    | イグアスの滝・インカマチュピチュ・ナスカ地上絵                  | 世界遺産、秘境の観光                    |
| 2016/2/25～3/4   | モロッコ                                     | イスラム圏の中のテロ輩出国訪問               |
| 2016/6/16～7/16  | プロバンス・バルセロナ・アンダルシア・ポルトガル・パンブローナ・バスク地方・パリ | 食の旅・世界遺産観光                    |
| 2016/10/7～20    | ラスベガス・エルパソ                               | 次男訪問                          |
| 2017/2/12～17    | ニュージーランド                                 | トレッキング                        |
| 2017/6/29～7/25  | スイス・イタリアトスカーナ・サルジニア・コルシカ・パリ              | トレッキング・ワイナリー見学・仏革命・ナポレオン縁の地訪問 |
| 2017/10/28～11/1 | ダナン・ホイアン・フエ                              | ヴェトナムの古都訪問                    |
| 2018/5/9～5/17   | バンコク・アユタヤ・スパンブリー                         | 日本語学校                         |
| 2018/6/1～30     | アイルランド・北イタリア                             | 英語学校                          |
| 2018/9/18～25    | キューバ                                     | 社会主義国訪問                       |

そして旅行に際しての心がけとして、①海外旅行保険を付保すること（ご友人で旅行中に大病になり莫大な医療費が掛かったものの保険で全て賄えた事例もあったそうです）、②サイト、チラシ等で徹底比較して経済的な旅行にすること、③同行者がいる場合にはパートナーシップを重んじ我を張らないこと、④充実した旅にするためにテーマを決めること、を挙げられています。

それでは、この度のテーマである『アイルランド語学学校』（英語学校）になぜ講師が行くことになったかについては以下のご説明がありました。

講師は、現役時代は機械装置の輸出入業務の営業で商談や契約書の作成をされたそうですが、その際に英語力の必要性を痛感されたそうです。また、旅行を趣味とされているので、ツアー旅行では味わえない充足感を得るための個人旅行には英語の習得が欠かせないと考えられてそうです。

そして2015年8月に現役を引退され時間的に余裕が出来たこともあって旅行を兼ねて語学学校に参加しようと考えられたそうです。

次になぜアイルランドなのか、つまり語学研修先にアイルランドを選ばれた理由としては、①これまで訪問したことがない国であること、②語学学校の本場であるイギリスに比べ授業料が比較的安価であること、③滞在する上でセキュリティーに不安がないこと、を挙げられています。

ところで、アイルランドとはどのような国でしょうか。講師の資料によれば、北大西洋のアイルランド島の大部分を占め、島の北東部はイギリス領北アイルランドと接しております。そして、その他の項目は以下の通りです。・面積：7万280㎢（北海道位）、・人口：476万人、・首都：ダブリン、・民族：ケルト系アイルランド人、・宗教：カトリック84.6%、プロテスタント2.7%、・言語：公用語はゲール語と英語、・通貨：ユーロ、・ビザ：観光目的90日以内ビザ不要、・時差：日本とは9時間（サマータイム8時間）

講師はこのアイルランドに今年6月に行かれたのですが、17日間滞在中週末はダブリンの名所訪問、北アイルランドのベルファスト訪問等、観光旅行、その後イタリアのドロミテでトレッキング、サンマリノ共和国等2週間車を使い周遊されました。

英語学校での半月間はどのような様子だったのかご講演頂きましたのでご紹介します。

英語学校の名称は、「Centre of English Studies, Dublin」という1979年設立の伝統校で、教本として「Oxford UNIVERSITY PRESS」他のプリントを使用されたそうです。授業の内容としては、文法（Grammar）、会話（Conversation）、聴取り（Hearing）、書取り（Writing）、遠足（市内・校外学習）（Excursion）があったそうです。

授業期間は1週間以上（講師は2週間受講）でテスト結果次第では教師の推薦で上のクラス（中級、上級）に進級も可とのことでした。そして、時間割は月・金は9：00～13：00、13：00～14：00はランチタイム、火～木は9：00～16：00、土・日は随時出席という仕組みだそうです。

講師の所属したクラスの生徒数は11人で、国別には、トルコ人・3人、ブラジル人・2人、韓国人・2人、イタリア人・1人、サウジアラビア人・1人、ベネズエラ人・1人、日本人・1人（講師）で、随時他クラスに編入出の制度があったそうです。また、観光ビザ90日以内での修学も可能でビザを現地で延長し1年以上も滞在している生徒もいたそうです。この生徒は週に28時間以内の就労もしていたとのことでした。

生徒の多くは、現大学を休学して英語学校に来ており、学習意欲は極めて旺盛かつ真剣で、「暇をもて余して短期間学習する」者との場違いさを痛感したとのことでした。そして、これらの生徒の多くは、修学後は①国際弁護士、②ジャーナリスト、③英語教師他を就職希望先としていたとのことでした。

次に、授業内容の一部をご紹介します。

(教材1)

次の人物にかんするトーク (talk) を聞いてどのような理由で彼らをパーティーに招待しどのような話をするか、を皆で議論したとのことでした。

1. ガガ (米国の歌手)、2. エディー・マーフィー (米国の俳優)、3. マザーテレサ、
4. モンロー、5. エリザベス I、6. ベッカム (英国のサッカー選手)

議論の中では、①マザーテレサとガガは大きく異なったタイプの人物である。②テレサはいつも

時間、お金を貧しい人のために寄贈していたが、ガガは退廃的でありトランプの様にお金儲けが得意である。等が意見として出てきた。

(教材2)

先端技術と従来技術のそれぞれの優位性について、それぞれ示された写真を見ながら議論したとのことでした。

示された写真から以下の様な意見も出てきたとのことでした。

1. 米国をツアーしながら、馬にひかせた劇場で、自転車を電源としたサイレント映画を路

上に持ち込む。

→車を使うより馬車の方が安価、前近代的な娯楽が提供できる。エネルギーを使わない という効果があるが。

2. アジア、アフリカの田舎では清潔な水の供給する方法が最も大きな問題である。子供が遊びながら水を貯蔵タンクに組み上げる方法が発明された。これまで水くみ・運びに時間を費やしていたが、学校を休む必要がなくなった。
3. コロンビアボコダのバスストップ図書館

高価なタブレットは不要であるが、公園等炎天下での読書というデメリットもある。

また、装置販売の社員募集の広告を見て面接のお願い文を作成するという授業もあったそうです。

学校終了時には修業証書を頂くのですが、講師は「Intermediate (B1)」(上の中、あるいは中の上)であったそうです。

そして以下の2種類の講評を頂いたそうです。

(講評1)

1. レベルにあった文法、読本を購入して学習すること

2. 会話を行うこと
3. 動詞、慣用句を充実すること

(講評2)

1. 出席率が良い
2. 意欲がある
3. 時間厳守であった
4. 宿題をきっちりしてきた

英語学校での様子は概略以上ですが、宿舎はどうだったのでしょうか、また学校にはどのような方法で通学していたのでしょうか、掛かった費用はどのくらいだったか教えて頂きました。

宿泊については、ホスト・ファミリー宅に泊めて頂く（ホームステイ）、ホテルに宿泊する等の選択肢があったそうですが、講師はホスト・ファミリー宅に泊めて頂き、公共バスで毎日約30分かけて学校に通ったそうです。

ホームステイ先は、80歳代の好々爺夫妻宅で毎日充実した朝食と夕食を御提供頂き、昼食のサンドイッチまで用意して頂いたそうです。他のホスト・ファミリーでは朝食は飲物とパンあるいはピザが置いてあるだけ（アイルランドの一般家庭ではどこもこのような状況）だったそうです。また、年齢が比較的近く福祉・高齢化・環境問題等夫々の国の共通話題を折に触れ語り合えた事は、相互理解と生きた英語の学習に大いに役立ったとのことでした。

次に、掛かった費用ですが、約2週間の語学研修で約33.3万円だったそうです。費用の内訳としては、授業料・ホームステイ宿泊料（1泊2食付き）21万円、航空運賃12.3万円です。外食費・飲物代、通学交通費、休日の観光費用含まれておりません。

約2週間の英語学校を修学して、講師は以下の感想を述べられています。

#### 1. 全般

ホームステイ、公共バス通学をしながら英語学校へ通った事は、不慣れで苦労もあったが、英語学習だけでなく当地名所、各種文化、宗教感等異文化を体験が出来た事は有意義であった。

#### 2. 各国から参加、それぞれの独特の発音（Intonation）の為、発言内容の聴き取りに苦労、又慣用句が難解で理解が出来ないことが多々あった。

言葉を学ぶ者は「1日に5回恥をかきなさい」と教えられ、これを機会に今後も学習を続けようと考えています。

英語学校を終了してからは、ダブリンや北アイルランドのベルファストの名所を訪問されたとのことでした。

#### 1. ダブリン名所

##### ① ジーニー・ジョンストン号（飢餓博物館）／大飢饉のモニュメント

・1845～52年のアイルランドの大飢饉で100万人の餓死者が発生、100万人が海外へ移住。

この帆船で多くの移住者がアメリカへ運ばれた。

②近くのアイランド移民博物館にはオバマ前大統領、ケネディー元大統領の写真も掲載

祖先はアイランド出身の説明があった。

③ギネス・ストアハウス

黒ビールで有名なこの醸造所は欧州最大で、見学が終われば1ポイント(0.57ℓ)試飲できる。

④学校近くのパブでのアイリッシュダンスと音楽を楽しめた。

⑤モハーの断崖

2. 北アイランド ベルファスト

①映画、「タイタニック号」の撮影スタジオ

②タイタニック号建造 ハーランド・アンド・ウルフ造船所跡見学

最後に講師から英語に関する設問がありましたで紹介します。  
皆さん、どれだけ解けますか。挑戦してみてください。

( )の中に入るのは①か②か、

1. I want you ( ) him at once.

①to call ②call

2. I felt someone ( ) my back.

①to touch ②touch

3. 昨日の試合、どちらが勝ったのか。①が正しい表現かあるいは②か

①Which did win the game , the Tigers or the Giants?

② Which won the game ,the Tigers or the Giants?

4. ①と②の日本語訳は

①He is sure of winning the game.

②He is sure to win the game.

5. お便りお待ちしております ( ) に入るのはどれか。

I am looking forward ( ) from you soon?

①hear ②to hear ③hearing ④to hearing

(東京電機大)

6. 私たちが昨年の夏訪れた場所を覚えていますか

Do you remember the place ( ) we visited last summer?

①where ② which

(東北学院大学)

7. 飛行機から見れば、その島々はまるで点の様だ

( ) from an airplane, the islands look like dots?

(日本大)

①See ②Seeing ③Having seen ④Seen

8.時間がなかったので、私たちはタクシーでそこへ行った

We were running out of time, so we went ( ) by taxi.

①to there ②there

(甲南大)

\*それぞれの正答をお知りになりたい方は、世話役宛てに問い合わせして下さい。

以上が11月度ぶらくり会の講演要旨ですが、講師のいつまでも変わらない学習意欲、バイタリティーには大変感動したところです。

お互いに生涯に亘って向上心を持って充実した日々を過ごしたいものです。

以上

ぶらくり会世話人 柑芦会神戸支部 平林 義康 (大学20期)